

香川県のため池密度全国1位

一雨が少ないからだけではない、その理由とは一

香川県公立中学校教諭

1. 地図から見る中国・四国地方の気候

中国・四国地方の地図を見ると、東西に走る中国山地と四国山地によって3つの地域に分けられている。日本海側は冬の季節風によって多くの雪が降るが、中国山地を越えた瀬戸内や太平洋側ではあまり降らない。また、太平洋側には夏の季節風によって多くの雨が降るが、四国山地を越えた瀬戸内や日本海側の地域に降る雨は少なくなる。香川県の南側には讃岐山脈があり香川県に降る雨はさらに少なくなる。香川には「讃岐三白」といわれる特産品がある。三白とは、砂糖、塩、綿のことである。降水量の少ない香川でつくれるものという先人たちの努力による特産品である。

2. 短くて勾配が急な河川

香川県の降水量は全国平均の3分の2程度であり、全国的にみても降水量の少ない県である。雨は6月や9月に集中して降り、すぐに海に流れ込んでしまう。地図を見てみよう。山間部が少なく平野の広がる香川県だが、南に走る讃岐山脈から北の瀬戸内海までの距離は30kmほどしかなく、その間の高低差は約1000mもある。県内最大で唯一の一級河川である土器川の延長は33km、水源の標高は1059mである。多くの川が短く急勾配であるため、河川の水を十分に利用できていない。その香川では広い平野と温暖な気候から、奈良時代末期にすでに現在の水田の約7割に達する耕地が開かれ日本でも有数の農業地域だった。稲作に必要な水を確保するために、先人たちはため池を次々に造っていった。

3. ため池密度が日本一「満濃池」も日本一

現在、香川県には14,000のため池があり、この数は全国3位である。香川県は全国で最も面積の狭い県であることから、1km²あたりのため池の

数は7.79となり、ため池密度は全国1位である。日本最大のため池といわれる満濃池は、今からおよそ1300年前に造られ、「中学校社会科地図 初訂版」p.80~82何度も決壊しながら平安時代には空海、江戸時代には西島八兵衛によって改築が行われた。今年も6月13日にゆる抜きが行われ放水された水が丸亀市をはじめ近隣2市3町の水田を潤している。

4. ため池と香川の農業・日本人の食生活へ

香川には最大2万あまりのため池が造られたが、現在は14,000まで減ってきている。香川用水完成の影響もあるだろうが、それよりも大きな原因は、米の消費量の減少にあると考えられる。香川用水完成後の1975(昭和50)年の水稲作付面積は28,000haであった。それが2007(平成19)年には半分近くの15,000haにまで減少している。当然の間ため池の数も減少している。1970(昭和45)年には18,620、1985(昭和60)年には16,304、1999(平成11)年には14,619にまで減少している。このことは、ため池が稲作のために造られ利用されてきたことを裏付けている。香川県にため池が多い理由は、降水量が少なく河川の水を利用できなかった人々が、稲作に必要な大量の水をため池から得ようと、古代から長年にわたってため池を築造し大切に利用してきたからである。

今後のため池の動向を注視しながら、ため池を通して自然、気候、歴史、産業そして日本人々の生活に追究の目を向けさせたい。

